

ボーリングデータベースを用いた沖積層の N 値・堆積物の 3 次元分布：東京低地および中川低地の例

Three dimensional distributions of N-values and sediments in incised valley fills: examples of Tokyo and Nakagawa Lowlands

石原 与四郎[1]; 江藤 稚佳子[2]; 田辺 晋[3]; 中西 利典[4]; 木村 克己[3]; 八戸 昭一[5]; 中山 俊雄[6]
Yoshiro Ishihara[1]; Chikako Eto[2]; Susumu Tanabe[3]; Toshimichi Nakanishi[4]; Katsumi Kimura[3]; Shoichi Hachinohe[5]; Toshio Nakayama[6]

[1] 福岡大・理; [2] 福大・理・地球圏; [3] 産総研; [4] 産総研・地質; [5] 埼玉県環境科学国際センター; [6] 都土木技研

[1] Fukuoka Univ.; [2] Earth System Sci., Fukuoka Univ.; [3] GSJ/AIST; [4] GSJ, AIST; [5] Center for Envir. Sci., Saitama; [6] Institute of Civil Engineering of T.M.G.

東京低地・中川低地の地下には、最終氷期に形成された谷地形が未固結堆積物からなる沖積層により埋積されていることが知られている。埋没谷の形状やそれを埋積する堆積物の分布を把握することは、沖積層の形成過程を明らかにするということだけではなく、軟弱地盤の把握など、応用地質学的にも重要である。筆者らは、東京低地から中川低地にかけての埋没谷形状およびそれを埋積する堆積物の評価のため、土質ボーリングデータの収集や層序ボーリング調査を行った。本報告では、東京低地北部および中川低地周辺(東京都葛飾区・足立区・江戸川区・台東区・墨田区、埼玉県三郷市、草加市、越谷市周辺)において、約 4,500 本に及ぶ既存の土質ボーリングデータの収集・データベース化および層序ボーリング調査の研究成果に基づき、埋没谷を埋積する堆積物の N 値および堆積物の 3 次元分布を検討した。その結果、N 値や堆積物の分布が、沖積層の形成過程を反映した分布を示すことが明らかになったので報告する。